

◇ 新刊紹介

まろやかな心―青少年育成五十年― 巨田
元尚著 巨田尚彦発行 昭和六十三年十二月
A5判 四九五頁 函一七 非売品

前坂井郡春江町教育長の故巨田元尚氏の遺稿集で、一周忌を迎えたさきほど、長男の尚彦氏（県立金津高校教諭）の手により刊行された。元尚氏は昭和十一年より戦前・戦後を通じて学校教育一すじに精進し、県教育研究所長を最後に勇退後は、さらに町教育長・青少年育成県民会議副会長・全国町村教育長会副会長などの要職に就き、県下教育界の発展とりわけ青少年の健全育成に大いに尽力した。その間の貴重な体験や教訓について書き残した数多くの論稿・評論・随想などをまとめて一本にしたと、三年ほど以前から編集をすすめ、書名も「まろやかな心」と決めていた。ところが、昨年一月急逝したため、尚彦氏が父親の遺志を受け継ぎ、遺稿約一五〇編を整理し、さらに友人や知人からの追悼文を加えて公刊にこぎつけたのである。内容は二部構成で、第一部「子どもと父母と学校と」では、「子どもの願いと児童心理」「親のねがい」「親の言い分、子どもの言い分」などのテーマからなるが、いずれも長年の生きて働く教育実践をふまえただけに、きわめて説得力に富んでいる。第二部「教師も家庭も社会も」

の「三歳児とどろんこ遊び」「祖父母の英知を大切に」「子どもにとって「家庭」とは」などでは、教育の座標軸を「家庭」に求めねばならないことを、さまざま事例により平易な表現で、しかも迫力のあるタッチで述べるところから、教育関係者はもちろん一般読者の胸にいたく訴えるであろう。

お問い合わせ・お申し込みは巨田尚彦氏（坂井郡春江町西長田三四―三〇七七六―七二―二一四）まで。

(以上、三上一夫記)